

各位

党派を超えて国家的課題を追求する

公益財団法人協和協会 時代を刷新する会

両団体会長代行 岸 信 夫
両団体理事長 半 田 晴 久
交通部会長 松 本 治 男
専務理事 清 原 淳 平

交通部会のお知らせ(第273回)

日時 令和元年6月25日(火) 午後1時半～3時半
場所 参議院議員会館 1階 102会議室
千代田区永田町2-1-1

◆国会議事堂前駅(丸の内線・南北線)①番出口より下車5分、永田町駅(有楽町線・半蔵門線)①番出口より下車2分。当日、午後1時より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。その時刻前に到着された方は、恐縮ですが、受付脇のロビーにてお待ち下さい。会議開始後にお越しの方は、受付に「102会議室に行きたい」旨お伝え下されば、お迎えに参ります。

- 議題
- 1、最近の交通情勢について想う
挨拶 松本治男 交通部会長(元近畿管区警察局長)
 - 2、令和元年版交通安全白書について
 - 3、交通事故統計(5月中及び6月24日まで)
解説 警察庁交通企画課 落合大地課長補佐(警視)

報告

去る5月28日開催の第272回交通部会は、松本治男部会長がやむを得ない事由で欠席されたため、小野正博(公財)日本交通管理技術協会会長が議長を務め行われました。

まず、小野議長より、「最近の交通情勢について想う」と題して開会挨拶がありました。今月の最大のトピックは、大津市の右折車と直進車の衝突に保育園児が巻き込まれた事故である。原因は右折車の前方不注意によるものだ。直進車がいるにもかかわらず、行けるだろうという甘い予測が招いたものだが、私はこれを横着運転と呼び、このような運転をしないよう啓発したいと考える。同時に、自動運転システムが普及すればこのような事故は起きないだろうという風潮にも警鐘を鳴らしたい。

緊急時以外は機械が操作するという事は、人間はその間つい気を緩めがちだ。そんな気を緩めた人間が、いざ緊急事態が発生した時に適切な運転操作ができるものか、よく考えてみた方がよい。

次に、警察庁交通局交通企画課 岸岡克典係長(警部)より、「子供の交通安全対策」について解説がありました。日本は、欧米に比べ歩行者の事故死者数が多い。5月8日未就学児が被害者となる事故が発生し、各県警で同様の交通環境の有無、子供の安全を図る対策の必要性について検討した。安倍総理からは、未就学児を中心に子どもが日常的に集団で移動する経路の安全確保対策を早急に取りまとめるよう指示があった。通学路の交通安全を確保し、生活道路ではゾーン30の拡充を行う。小学校就学前の交通安全教育を行うなどの対策を行っている。

次に、「高齢運転者の交通防止対策について」解説がありました。75歳以上の高齢運転者は、操作不適による事故が最も多く、ブレーキとアクセルの踏み間違えは他の年齢層の5倍と高い。2年前に施行された改正道路交通法では、認知機能検査の実施と自主返納しやすい環境整備を柱としている。先日の池袋での高齢者事故を契機に、自主返納希望者が増加したとの報道もあり、高齢運転者の特性を踏まえたさらなる対策を検討している。

次に、「交通事故統計(4月末及び5月28日まで)」について、解説がありました。4月は4人の減少にとどまったが、5月は35人の減少となり、部会前日の時点では1187人で148人の減少となっている。

この後、委員一同にて盛んな意見交換があり、以下のような意見が出された。◎一部の交通教本では横断歩道を渡るときは手を挙げて左右確認、という記述が削られたが、車が来ないことを確認して渡る習慣を見直した方がよい。◎古くから馬車が普及していた欧州と日本では道路がつけられた環境が違うのが、歩行者事故の違いにつながっている。◎自民党の交通安全部会では、幼稚園などの周囲は車両進入禁止が議論されたそうだ。

★ 資料代 会員500円
次回、6月25日(火)の交通部会(参)に

出・欠 (いずれかに○印)

事務局宛FAX 03-3507-8587

御芳名

貴方様のFAX 電話

テロ対策への警備からの要請上、会員に限ります。
非会員で参加希望者は、2日前までに履歴書をご提出下さい。
(その際の会費は二千元となります。)